

平成29年度 第2回吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：平成29年11月28日（火）

午後2時～4時

開催場所：中央図書館1階 第1集会室

出席委員）稲垣委員、久保委員、佐藤委員、佐中委員、柴田委員、末岡委員、林委員  
渡邊委員

事務局）木戸地域教育部長、落地域教育次長、  
西尾中央図書館長、宮東参事、長参事、林野主幹、栗生主査、  
森司朗千里図書館長、森ほだかさんくす図書館長、  
梶原江坂図書館長、廣本千里山・佐井寺図書館長、  
桑名千里丘図書館長、牧瀬山田駅前図書館長

傍聴者）1名

平成29年度 第2回吹田市立図書館協議会次第

- 1 7期 吹田市立図書館協議会による要望書（案）について
- 2 「平成28年度（2016年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）」作成について
- 3 報告事項
  - （1）「（仮称）健都ライブラリー」ほか図書館の現況報告
  - （2）退任委員の報告
- 4 その他
  - （1）次回日程について
  - （2）その他

渡邊委員長：開会の挨拶

事務局：傍聴者確認 1名

出席確認

交代委員の紹介

久保委員：自己紹介

地域教育部長挨拶

事務局：資料確認

## 1 7期 吹田市立図書館協議会による要望書案について

渡邊委員長：先般より委員の皆様からいただいた意見をまとめて、前回報告をしており  
ました。改めて前回いただいた意見を加えて再編集したものを提示しています。  
若干誤植などを訂正し、また確定しなければならない個所がいくつかございます。  
改めて各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っています。

事務方との協議の中でこの要望書を11月30日付とすること、第7期図書館協議  
会の作成とすること、を決めました。この2点についてよろしいですか。また、  
一部内容の訂正ではなく脚注の番号を入れ替える箇所をご了承ください。

それでは内容についてですが、標題紙、タイトルについてどうするかについて  
御意見を頂戴したいと思います。

稲垣委員：質問です。文書の取扱についてです。諮問機関なので、諮問はされてい  
ない  
ですが、この文書は会長さんが館長に出すものですね。館長に出すということは  
教育委員会に出すということになるのですね。図書館だけでは解決付かない問題  
がたくさん含まれていますので。

西尾館長：こういう要望書をいただきましたことは教育委員会に報告します。

稲垣委員：これについての回答は予定していないのですか。

西尾館長：多岐にわたりますので予定はしていません。

稲垣委員：アクションプランや点検・評価報告書に盛り込めないでしょうか。

宮東参事：いつも6月の協議会でご報告しています。各館や各サービスの基本方針と目  
標に盛り込みたいと思っています。

稲垣委員：そういう意味では前向きに取り組んでもらいたいということで要望でしょ  
うか。

渡邊委員長：案としては吹田市立図書館への要望ということで、下に第7期吹田市立図  
書館協議会とつけようと思います。

渡邊委員長：改めまして前回ご指摘いただいた日本語訳と合わせまして内容はいかが  
でしょうか。

わかりにくいところを項目立てて整理いたしました。軽微な調整ということで  
御意見をいただけたらと思います。

佐藤委員：質問です。吹田市子ども読書活動推進計画の改訂についてですが、現実的に  
現時点ではどのように考えていますか。

西尾館長：吹田市子ども読書活動推進計画については、地域教育部の総務的な役割であ  
るまなびの支援課が中心となって1回目2回目とまとめてきました。今後につい  
てはまなびの支援課と協議をしながら決めていくこととなります。まなびの支援  
課が取りまとめ課になりましたのは部を超えて、児童部や学校、保育園、幼稚園  
との関係があるためです。

初回が5年で改訂となっていました。計画がどのような形で進むのかがわかり

ませんでしたので前回の改訂ではその文言を取りました。現在第3次も出ている状況ですので、それを踏まえて検討していかないといけないと思っています。

佐藤委員：ここは強く要望したいです。

佐中委員：今の件ですが、まなびの支援課にはそのような体制ができていますでしょうか。

落次長：体制が、有るか無いかとなると、厳しいところがありますが、何とか進めていかなければならないところだとは思いますが。

末岡委員：読ませてもらって、クエスションマークよりもグッドグッドというところが多かったです。わかりやすく素晴らしくまとまっていると思いました。5ページにあります「間接的ではあるが」というのはどういう意味でしょうか。SNSが間接的ということですか。何が間接的なのでしょう。

渡邊委員長：図書館が直接「吹田市に住むのは良いよ」というのではなく、こんなサービスがあって住んでよかった、文教地区として家族で住みたい、と思ってもらえるような情報発信を、図書館がしていただきたいということです。図書館のサービスを通じてというところが言いたかったものです。

末岡委員：6ページに関連する人々を巻き込んでという言葉があるのですが、巻き込む力が大きければ大きいほど、これは障がい者に限らず共通して巻き込むという言葉は良いと思います。

渡邊委員長：間接的という部分については、いったん持ち帰らせていただきます。

林委員：登録者が多いにもかかわらず貸出しが少ないということですが、現在どのような働きかけを図書館では行っているのでしょうか。リピーター以外のほとんど利用しない登録者に対する具体的な働きかけがわからなかったのです。

渡邊委員長：それについては今後も引き続き、続けていってほしいという内容ですね。現状としてはいかがでしょうか。

西尾館長：図書館は窓口を委託して以来、行事に力を入れてきました。それはひとえに今まで来ていただけなかった方に向けて行事の範囲を広げてまいりました。スポーツ推進室との連携による運動講座もその一端ですし、健康情報については病院に声をかけて講演に来ていただくなどをしてまいりました。それでも限界があるということで、昨年市民モニタリング調査に参加し、この場でご報告もさせていただきました。知らない人にとっては図書館は知らないところですので、今後とも地道に進めていくしかないと思っています。子どもの利用率は高いですのでそれを活かした取組が必要だと考えます。中高生でどこの図書館でもそうですが、いったん切れます。そこが苦慮するところだと思っています。

宮東参事：児童サービスに力を入れたいと思っています。ブックスタートで80%の子供に本が手渡せていますので、その時カードを作っていたいただいたものが1年生になるとちょうど期限が切れます。そのあたりで働きかけができればと思っています。

子どもの時に図書館を利用していけば、大人になってお子さんができたらまた図書館を利用してくださると信じています。そのような形で続いて行ったら良いと思っています。

渡邊委員長：繰り返しになりますが、その時期、時代に合った利用者の開拓の方法があると思うので常に検討し続けていくようにしていただきたいです。

久保委員：この内容については参画していないのですが、大変な作業をされているのだなどお見受けしたところでした。これは要望書ですので、1点だけ5ページの図書館の魅力をお伝えするような情報を図書館の視点から発信しても良いと思います。吹田市は子供が増えている素晴らしい市だなと私も住んでいて思います。でも発信するところが少ない。本を読んでいるお子さんが全国平均より下回っています。特に中学になると少なくなるのをどうしたら良いのかなということで、魅力の発信というのを是非進めていただきたい。本を読むのが一番勉強になります。SNSなどを否定するわけではないですが、本を読むことが基礎になっていると思います。要望書ということですので要望したいと思いますのでよろしくお願ひします。

渡邊委員長：学校と学校図書館、図書室と公共図書館との連携をいかにするか。どのようなプログラムを作れば最終的に子供の読書推進につながっていくのかのあたりを検討していただきたいということですね。ありがとうございます。

改めて修正を経て11月30日付で正式版として作りたいと思います。標題は吹田市立図書館への要望ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、それで完成させたいと思います。ありがとうございました。

## 2 「平成28年(2016年)吹田市立図書館点検・評価報告書」(案)について

渡邊委員長：次に次第の2に移ります。「平成28年(2016年)吹田市立図書館点検・評価報告書」(案)についてまずは事務局より説明をお願いします。

宮東参事：毎年実施しております点検・評価ですが、平成28年度に実施しました事業を図書館の基本構想の項目に合わせて整理し、数値目標についてはアクションプランに合わせて設定しております。大きく実態と違うところを前回一部修正しました。中の数値につきましては次にご説明します「吹田市の図書館活動平成28年度版」で、統計数値が確定しましたので、まずそちらの説明を長の方からさせていただきます。

長参事：「吹田市の図書館活動平成28年度版」についてご説明いたします。図書館の活動を統計値で表したものです。まず、表紙裏の目次をみていただきますとどのような統計を取っているのかがわかりますが、機構や決算、図書館協議会、ボラン

ティアについての記述の後や図書館資料や利用者、貸出・予約などに関する統計をいろいろな切り口の数値で表しているほか、図書館の各種サービスや特設行事なども、参加者数などの統計値とともにどのような活動を行ったかがわかるようになっていきます。

例年ほぼ同じ項目で出していますが、27年度と大きく変わった表し方をしておりますのが、26ページからはじまります「14子育て支援サービスの取組み」です。前年度平成27年度までは、「ブックスタートの実施状況」として記載しておりましたが、ブックスタート事業だけでなく図書館が行っております、子育て支援事業全般をこちらにまとめました。乳幼児とその保護者向けに絵本の読み方を伝える「抱っこで絵本講座」、わらべうたと絵本のよみ聞かせを楽しむ「親子で絵本とわらべうた」、や保育園や保健センターとの連携事業であります「赤ちゃん会」や「らっこクラブ」などでの活動についても記載しています。

また、同じく26ページの「13障がい者サービス利用状況」につきましては、例年月別館別の対面朗読回数や録音図書貸出数等を載せておりましたが、こちらを合計数のみに圧縮しまして、新サービスとして28年12月から開始しました録音図書のひとつであります音声デジター専用再生機の貸出数や、録音図書や点字図書を利用者がそのままダウンロードできるサピエ図書館や国立国会図書へのコンテンツ提供数やダウンロード数など多くの観点から統計値を載せております。また、図書館利用者の統計値につきましては、ほぼ例年通りの項目立てとしていますが、平成28年2月のコンピューターシステムの更新に伴い、分室を除く各館に不正持出防止用のゲートを設置しましたことから、来館者数をカウントできるようになりました。7ページ「6利用者統計」の下部に来館者数として出しております。

以上、簡単ではありますが、前年度から変更のあったものを中心に平成28年度の吹田市の図書館活動についてご説明いたしました。

宮東参事：本日お配りした資料「平成28年（2016年）吹田市立図書館点検・評価報告書」

（案）をご覧ください。図書館の評価につきましてはA B C Dの4段階の評価と成果と課題ということで入れております。あらかじめお送りしておりましたが、変更点を中心に簡単に説明いたします。1ページ目に、吹田市立図書館の3つの基本目標というのが掲げてございます。これにあわせて毎年事業に取り組んでおります。

2ページ基本目標1「いつでもどこでもだれでも役立つ図書館サービスを」ということで取組み1として「施設及びサービス網の整備」をあげております。中央図書館の整備と、不便地域岸部の進捗と、数値としては広域利用の結果をあげております。図書館の自己評価としては進んだところも多かったのでAをつけております。成果としては耐震診断の予算化、健都内での図書館整備が開始したこ

と、広域利用も大きく進んだことを上げました。課題としては今年度耐震診断となりましたので現在その正式な結果を待っております。それを待つてできる限り最良な施設を整備することを課題とさせていただきます。

佐藤委員：成果というところの書き方ですが、全般にわたってですが、例えば1年目は予算化できた、2年目は実施できた、と成果になるというのが評価に対する不信感になっています。その辺を整理してどこまでを成果とするのか、きちんと成果の中味を精査していただきたいです。

宮東参事：4ページ目の利用促進については、数値として貸出冊数とホームページへのアクセス数を入れております。一昨年はシステムの入替のための休館やシステムの停止などがありいずれも数を減らしていたものが、回復をいたしました。来館困難な方への郵送準備もいたしました。これについては本年度の実施となりました。数は増えましたが、目標値は高いですので自己評価Bということです。

稲垣委員：今日これを討議して、いつも通りまた文章にしてお送りしてということになるのでしょうか。

宮東参事：今回で終わりになられる方が多いので、御意見をいただけるように、いつもより早くに提案させていただきました。早くから始めたほうが良いという御意見もいただいております。

末岡委員：自動貸出機については成果が出ていると思います。実際利用していても早く借りて帰れます。郵送貸出も今年から始まったと広報誌で読みました。ホームページのアクセス数も増えていますが、SNSについては減っています。これはSNSについてはもう頭打ちということなのでしょうか。

宮東参事：これはSNSの発信数です。

西尾館長：SNSについては少し残念に思っています。担当の部署が、かなり他のところで負担が大きくなって、なかなか思うように載せられなかったというところがあります。

末岡委員：努力次第で増えていくということですね。では努力していただくということで。

渡邊委員長：関連してですが、投稿すること自体も大事ですが、それに対するリアクションがどうなのかが実は問題です。リアクションによって発信される情報の質もまた図れるのだらうと思います。イベントの情報を載せた後、フェイスブックでは「いいね」が付いたり、ツイッターでは、リツイートされて拡散されていくというリアクション。そのようなリアクションがもたらされるような情報が発信されていることが重要なのだと思います。将来的な課題でもあると思うのであわせてご検討ください。

柴田副委員長：関連してですが、インプレッションとかツイート数をピックアップして見ることはされているのですか。

西尾館長：ここには出ていませんが、一昨年度についてはどんな反応があったのかという

のはある程度把握しております。一昨年度はかなり精力的に発信をしておりました。よそのサイトにシェアされたものも把握しておりました。やればやるほど返ってくるというところは認識しています。

柴田副委員長： どういう形で発信した時にどういうリアクションがあるのかを把握しながら発信していくことが大事だと思います。

西尾館長： 「今日の一冊」で珍しい物やニュースになったものに関連した資料を発信すると反応があるようです。他にもリツイートされていたようです。

宮東参事： 課題に付け加えます。

柴田副委員長： 自力で発信するのも大事ですが、自動で拡散していくというのが今後のやり方なのではないでしょうか。考えていただいたらと思います。

宮東参事： 5ページから6ページ 資料と情報の提供ということで昨年度取り組みました行事の参加人数やレファレンス、読書調べもの相談の数値を入れております。そのうち行事についてはアクションプランの数値を見直した個所となっております。成人向け児童向け合わせて31年度までに26,000人の参加者をということで、教育委員会の重点目標に掲げたことから、その数字からそれぞれ割り戻して参加人数目標といたしました。評価についてはBということで、いろいろな資料に結び付けるために、先程館長も申し上げました通りいろいろな行事に取り組んでおります。目標値には達成していませんが順調に増加していると思います。なるべくPRに努めて一人でも多くの方に本と出会って人と出会ってということで提供できたら思っています。

現在山田駅前図書館と中央図書館で本の好きな子集まれという形で来てもらって活動をしています。図書館のお手伝いや自分たちでビブリオバトルをしてもらったり、サポーター通信を作って各館で配ることを28年度は取り組みました。中高生世代の利用を伸ばすために毎年職業体験を学校からの御依頼で引き受けております。学校の間での日程調整が難しいので、図書館で調整させていただき、年度初めに一斉受付をしたことで受入数としては倍増しました。ほぼ、お断りすることなく来ていただけるようになりました。来ていただいた生徒さんを通じて図書館の利用が増えていけばと考えています。学校への団体貸出しをスムーズに行うためのごりまる便の受付をインターネットでできるようにしました。これは良く利用されていて、もうこれ以上の運行はできないところまで来ています。あと、パスファインダー、お見せしているのは大人向けですが、子供向けの物を作成中です。団体貸出しの受付もインターネットでできるようにというのを課題として現在取組み中です。

稲垣委員： 質問です。7ページの行政支援サービスというのは市役所の職員にサービスを開始したということですが、もう少し詳しく教えてください。

宮東参事： 新着資料の案内と、今話題になっていることや、図書館でできることのご紹

介を庁内LANに毎月載せています。やはりお知らせすると電話がかかってきて、「こんなことを調べているんだけど」という反応がポツポツあります。

稲垣委員：市役所の方が予約をして、来館して借りていかれるのですか。

西尾館長：実は配達もしております。

宮東参事：まだ車を仕立てるほどには申し込みがございませんので、日々の事務連絡に合わせてお届けしたり、お近くの図書館で受け取っていただいたりと合わせて行っています。資料を見に来られて複写をして帰られるという利用もあります。吹田の古い町の様子などを調査するようなこともあります。

稲垣委員：府立図書館も同じようなサービスをしていると思うのですが、紹介してください。

柴田副委員長：毎日シャトル便が中央図書館と中之島図書館にありまして、それに合わせて本庁のほうへ運んでいます。複写も図書館業務の扱いとなっています。大量の複写については紙代の負担などをお願いすることになります。レファレンスをFAXなどで受けて資料をお送りしています。レファレンスについてはスピードを求められるものが多いです。社会、自然系の部署ではレファレンスのなかで大きな割合を占めています。

稲垣委員：府立図書館のEレファレンスを利用していますが、吹田にもあるのでしょうか。

西尾館長：ございます。

稲垣委員：私が知らないということはPRが足りませんね。すごく便利なので使っています。

佐藤委員：9ページの成果でビブリオバトルが書かれていますが、成果ということはあくまで新規に何か始まったことを成果と見なすべきなので是非そこを見直していただきたい。毎年同じことが成果と上がるのは問題があると思います。

ビブリオバトルは全国大会もあって、非常に面白い取り組みであるので市内の高校中学校では取り入れたらよいと思います。図書館としてもより多く利用していただく方向で学校に要請していくように、利用が減るといわれる中高生が本に向く起爆剤になると思います。実際におもしろいです。毎年ここでされているのに参加しています。

久保委員：9ページの職業体験を工夫したことで受入数が倍増したとありますが、この工夫と倍増する前がどのくらいでどうなったか教えてください。職業体験は人気があるのでどのようにされたのかと思いました。

西尾館長：工夫については、毎年学校が同じ時期にカリキュラムを組まれるので、個々の申し込みに対応する形になると一か所に集中してお断りせざるを得なくなりません。年度初めに各校の希望を聞いてこちらで振り分けさせていただきました。お断りすることがほとんどなくなりました。

宮東参事：学校で調整するのではなくこちらで希望を聞いて、学校の方に日にちや場所の変更を相談させていただき、27年度は21校96人だったものが28年度は43校198人となりました。

渡邊委員長：ここにあるパスファインダーの内容はネットで公開されていますか。国立国会図書館には市町村レベルでのパスファインダーリストが掲載されていますが、そこに吹田市の名前がありませんでした。その登録をお願いします。

宮東参事：基本目標2「仕事や暮らしを豊かにする図書館サービス」ということです。施設や地域との連携ということで出前講座や講師派遣の数を入れています。専門職の仕事ととらえて今後も取り組んでいきます。10ページ取組み1「他部局との連携」に、豊中千里ニュータウン連絡会議の連携を追加しました。

11ページ取組み2「自己実現の援助」こちらは主にボランティア関連の項目となっています。現在も多くの皆様に支えていただき図書館活動を続けております。こちらは目標値に届きませんが、いろいろ努力を続けて、登録者数が前年度より少し増えました。図書館の自己評価Bとなっています。課題としては前回御意見をいただいたように、人数を増やすだけではなく今活動している方がどんどん活躍できることが大事かなと考えています。感想やご希望を伺いながら今後の活動に生かしていきたいと考えています。市民参画で企画からしていただくことが目標であり課題です。

末岡委員：図書館フレンズの活動について質問したいのですが、現状がどうなのか詳しく聞きたいです。ホームページの図書館フレンズのところを見てみますといろんなところでいろんな活動があるようで、二人とか人数は少ないですが回数は多いのだなと感想だったので、集まり具合が気になりました。

牧瀬館長：募集の状況ですが、お忙しい中応募いただいていますので、殺到するほどではありませんが、行事の受付などにはちょうどいい感じでご応募いただいています。もう少し来ていただきたいという時にはこちらからお電話をかけてお願いするようなこともあります。行事や講演会などでしたら一緒に講演を聴いていただいています。

宮東参事：行事によってはホームページに載せるタイミングが合わない場合には、こちらから登録の名簿を見てお電話でお願いすることもあります。急なのですが来ていただけますかとお願いして、快く引き受けていただいています。

13ページ「高齢者・障がい者サービスの充実」ということで対面朗読、音訳図書館の貸出とも増加しております。デイジー再生機の貸出やユニバーサルコーナーの設置に取り組みました。14ページに吹田市立図書館で作成し、サピエに登録したコンテンツのダウンロード数を追加しました。自己評価はAです。

佐中委員：図書館の評価の後の協議会の評価の項目の取扱はどうなりますか。追認ということになるのでしょうか。

渡邊委員長：今回で最後の方がおられるので前もってご意見を聞きたいということで今回しておりますが、次回の協議会でまとめることとなります。

さわる絵本展ですが 633 名ということですが、どのような内訳ですか。

森司朗館長：さわる絵本を千里図書館の多目的室で展示している間に来館していただいた人数です。

渡邊委員長：感覚で結構ですが、過去に比べると数は増えていますか。

森司朗館長：多くなっていると思います。

宮東参事：15 ページ「特色あるサービス」は各館でそれぞれ取り組んだ事業についての評価となっています。自己評価はAです。成果もあります課題もまだまだありますということです。ビジネス支援が毎年課題となっておりますが、地域経済振興室からお声掛けをいただきまして今年からなのでここには反映されておりませんが、起業のビジネス支援コーナーも設けました。そのような形でいろいろ声をかけているうちに、向こうから声がかかるようになってきています。

稲垣委員：「多文化サービス」15 ページにあります。英語以外の言語の取組はどうでしょう。

森司朗館長：他の言語としましては中国語や韓国語の本を入れています。去年はフィリピンですが、今年はベトナムの方をお招きして講演を企画しまして 40 名以上の申し込みがありました。

稲垣委員：読み聞かせする方と参加者の国籍などはどうなっていますか。

森司朗館長：絵本の読み聞かせは現在英語になっています。以前他の言語も 1 回くらいはありました。本は他の言語もありますが、読み聞かせるに至っていない状況です。読み手はネイティブの方と勉強中の学生さんがおられます。お客様は日本の方と千里地区には外国人の方が多いのでそのお子さんが参加されています。

西尾館長：「英語でえほんを楽しもう」は、関西大学の学生さんに来ていただいています。学生さんが英語で読み聞かせてくれる形になっています。

渡邊委員長：フィリピンやベトナムという企画もありますね。

森司朗館長：千里図書館には外国人の方がいらっしゃいますし、SIFA国際交流協会も同じ建物にありますので、図書館全体で取り組む「図書館講座じゅずつなぎ」の一つとして、できるだけ周辺地域の特に千里地区のお住まいの方に、その国のお話をさせていただくことを昨年で4回目今年が5回目で企画しています。

渡邊委員長：一利用者としては年1回ではなく、複数回、いろんな外国文化を知りたいと考えている人は多いのではないかと思います。関連してですが、講師等の依頼の手続きを教えてください。

森司朗館長：国際交流協会に依頼しています。協会を利用しておられる方などを紹介していただいています。

佐藤委員：ここが典型的です。成果1と成果3が去年と同文です。26年、27年と同じで

成果といえるのか。他にもある細かいものは文書で出します。よろしくお願ひします。

渡邊委員長：続きまして基本目標3取組み1「子ども読書活動支援センター機能の充実」についてです。

宮東参事：子育て支援、学校連携などの児童サービスについてです。ブックスタートでは地道な努力の結果、絵本の配布率を維持しています。ブックスタートのひろばの参加人数も回復いたしました。数値目標については、児童文学に係る講座講演会の参加者数と読書活動振興の講座派遣事業の参加者数が入れ替わっています。児童文学に係る講座については予算が決まっており、実施できる回数と図書館の集会室の収容キャパから妥当な数字と考えられる目標にいたしました。講師派遣については、お呼びがかかれば予算や施設のキャパに関係なく実施できるということで、機会があれば図書館から出かけて行って図書館利用を呼びかけ、読書振興につなげることを目指していきます。このところ、公民館からいくつかお申し込みがあり、うれしく思っています。自己評価としてはBです。

末岡委員：ブックスタートの絵本ですが、ずっと変わっていませんね。頻繁に変えてもいいのではという感想です。1冊本をもらっても他の本も頭に入って借りたり買ったりするので、次の子供の時にはもう不要になってしまいます。選択肢はもっとあるのではと思うので3年に一度とか変えてほしいという意見です。

林委員：絵本の中で、民話などは取り上げられますか。

宮東参事：昔話というジャンルは大事にしております。日本の伝統を子供たちに伝えていきたいです。日本の物に限らず外国の物も長く伝わってきたものは大事な文化だととらえ、文化継承は大事な図書館の努めであると考えています。

末岡委員：ごりまる便は満員状態と聞きましたが、ごりまる学校訪問は2回とまだ余裕があるのでしょうか。

宮東参事：学校訪問は別枠で考えていますが、希望が来ません。学校としても図書館に行くと本にたくさん触れることができ、図書館としても来ていただく方が良いでしょう。そして見学に来た時に出勤でない限りは、自動車文庫を見ていただいても入っていただいています。

渡邊委員長：ごりまる便、ごりまる学校訪問とありますが、学校の要望としては資料を貸してほしいというのが多いのでしょうか。つまり、先生が調べ学習をさせたいとか、どういう目的で図書館に依頼があるのかその辺りを知りたいと思います。

宮東参事：やはり資料に対する希望が多いです。読書活動支援員が行きわたってきたのでそちらで調整して団体貸出しを申し込んでいただけるようになりました。

渡邊委員長：それは国語の授業でしょうか。

宮東参事：調べ学習です。学校図書館の資料の補完をするということで授業で使う資料を申し込んで来られます。

佐藤委員：学校図書館の本はほとんど子供用の本です。昔の暮らしの資料や理科の分野など総合学習の資料が少ないので申し込んでくるというのはあると思います。

稲垣委員：別の話です。さっき佐藤委員がおっしゃった成果の書き方の問題ですが、去年と同じ文章で上げているのはここにあげる必要が無いということですか。私はこの文章を読んで28年度こういう努力をしたというのは残しておいて欲しいと思うのです。前年度もしたけどこの年度もしたということで残してもらった方が私は分かりやすかったです。

佐藤委員：それであったら言葉を変えて、この部分がより上がったという風にも書いてもらいたい。まるで同じ文句ではあかんと思います。

稲垣委員：この部分については引き続き努力しましたとか、数値が上がったとかというので良いのかなと思います。ただ、成果というのでくくるのは問題があるということですね。

渡邊委員長：継続事項と新規事業で分けてほしいということですか。

稲垣委員：わかりやすいので、その文章は残してほしいというのが私の意見です。

柴田副委員長：府立図書館の協議会の委員さんの発言であったことですが、たとえば予算が減るなど厳しい状況の中で、維持するというのも一つの成果である。ということを書けば良いのではと言われたのです。書き方は工夫するべきとは思いますが。私も書いてあった方が良く思います。

林委員：佐藤委員がこだわっている部分があまりよくわかりません。成果は成果で良いと思います。

佐藤委員：仕事というものはそういうもので、前に積み上げていく100段のうち1段でも良いのでそれをわかるように書いていただかないと成果とは言えないと思います。

渡邊委員長：全体を通して何かありませんか。

稲垣委員：20ページが一番下ですが、学研図書館部会となっていますが、これは学校の先生との協議の場ということですね。

佐藤委員：必ず小学校中学校に研究協議会があって、吹田市の場合は学研という研究部会を組織して、国語などの教科とは別に図書館の研究協議会がある。そのことです。摂津市は司書の参加はなくて、吹田市はその中に司書の方も入ってやっておられるということです。それは非常に良いことだと思います。

稲垣委員：学研は教員ですね。それには学校の読書活動支援員は入っていないということですね。それは年に1回とか2回でしょうか。

宮東参事：必要に応じて参加しています。三島地区の課題図書を決めたり、年度初めに集まるなどされています。そこで新しい図書の紹介などをしています。支援員さんについては地域館から学校に出向いています。支援員さんには出張というのがありませんのでこちらから出向いてどのようにされていますかとか、新しい方に

はこのようにされたらどうですかというようなことで、採用された時の研修にも呼んでもらっているのですが、図書館を上手に使っていただけるようお話をさせてもらっています。

### 3 報告事項

#### (1) (仮称) 健都ライブラリーの進捗状況と図書館からの報告

渡邊委員長：報告事項ですが、(仮称) 健都ライブラリーの進捗状況について説明をお願いします。

林野主幹：JR 岸辺駅近くで「北大阪健康医療都市」というまちづくりを進めており、その中で整備を計画しております図書館、(仮称) 健都ライブラリーについてのご報告となります。配布しております。資料は2枚、いずれもA4横長で、「(仮称) 健都ライブラリーの修正設計について」及び「(仮称) 健都ライブラリーのイメージ図」です。

基本設計の修正が、平成29年9月末で終了いたしました。資料の「(仮称) 健都ライブラリーの修正設計について」の左上に基本設計の主な修正内容を記載しております。1から5の番号を振っておりますが、当初の設計から変更点は4点です。

まず1つ目。新幹線の配置を2階から1階としました。1階の「健康・医療・スポーツコーナー」から新幹線の車内へ同じ高さでそのまま入れるように、駅のプラットホームのイメージで、地面を掘り下げて新幹線を置きます。

2つ目は、新幹線への雨除け対策・セキュリティ対策として、周囲に透明なスクリーンを設置します。資料の下の段、南立面図の1階の塀の向こうに新幹線がある状態です。併せてもう1枚の資料「(仮称) 健都ライブラリーのイメージ図」の方もご覧ください。雨除け対策としては、スクリーン上部には庇も付けます。台風直撃のような横なぐりの雨を避けるのは厳しいかと思いますが、斜め45度程度の日常の強めの雨には対応できるものと考えております。また、スクリーンの高さはおおよそ3.5mありますので、外部からの侵入なども防げるものと考えております。

3つ目は、ライブラリー内で、当初、1階の事務所横辺り、1階図面で言いますと、新幹線の後ろ辺りに書庫を配置しておりました。新幹線の配置場所変更に伴い、2階へと移動いたしました。2階図面の「閉架図書」と記載されている部分です。

最後に4つ目ですが、新幹線を2階から見ることができるようテラスを設けました。2階図面の下側に「テラス」と記載しているところです。デッキからと、図書のコーナーから外へ出るところの2カ所です。

以上の4つの変更に伴い、ライブラリー内の設備計画等の見直しを行いました。

た。今後の予定ですが、基本設計の修正が終了し、現在、実施設計に入っています。期間は平成 30 年 7 月末までの予定です。その後、建築工事をを行い、開館予定は平成 32 年 11 月です。(仮称) 健都ライブラリーについての報告は、以上でございます。

稲垣委員：施設の延べ床面積はどれくらいでしょう。

林野主幹：1,800 m<sup>2</sup>でしたが、これはカフェなどの面積を含んでいて、図書館だけではありません。新幹線の移動に伴って図書館部分の面積も少し増えてきました。

稲垣委員：開架冊数はどれくらいでしょうか。

林野主幹：基本方針では 5 万冊と出ております。健康医療都市に整備する図書館ですので健康医療に関する図書を厚く収集しますが、最初から揃えてしまうと買い替えの時期が同時になりますので段階を踏んで集めます。

稲垣委員：児童図書ゾーンについてですが、おはなし会をしようと思ったら多目的室を使うのですか。

林野主幹：児童図書ゾーンの中に絵本コーナーを作って、いったんそこに仕切りのできる仕組みを考えています。小規模の読み聞かせならばそこを使って、大規模な行事は多目的室や会議室の使用を考えています。多目的室と会議室の間の仕切りは動かせるようにして大きく使うことも考えています。参加人数に合わせていろいろな規模の行事ができるよう考えています。

末岡委員：新幹線の中ですが何に使うのかと、イメージ図ですが JR はどこを走りますか。

西尾館長：手前になります。新幹線は九州側を向いています。

末岡委員：テラスから電車は見えますか。子供達は電車が好きなので。

西尾館長：JR の貨物駅がちょうど横になりますのでどのくらい見えるかは厳しいところでは。

宮東参事：時々貨物列車は横を走ります。

西尾館長：座席を取り払って操車場跡地の記憶ですとかのパネル展示などを考えています。居室化しますと建築基準法ではかなり設備改修が必要となりますので、展示物の扱いで通り抜けてもらう形の活用方法を考えています。

## 図書館からの報告

西尾館長：続きまして北千里小学校跡地についてご報告します。平成 25 年に図書館基本構想を作成しました。今後 10 年間の図書館の目標の中で、施設の課題として中央図書館の再整備と図書館不便地域の岸部の図書館整備、狭隘であった北千里と江坂も拡充を目指すことを課題としておりました。その中の北千里の拡充が方針として出されたことを報告いたします。9 月の市議会定例会で北千里小学校の解体工事が承認されまして、解体工事が進められています。その跡地の利用として、公民館、図書館、北千里の分室の移転、児童センターということ

で方針が出されていますが、どんな規模になるかはまだ決定していません。現在が 155 m<sup>2</sup>しかない図書室で、拡充の要望も受けておりますので、施設の拡充に向けて協議を進めていけるようになったので御報告します。

稲垣委員：信号の南、校舎のある方ですね。

### 茨木市の予約棚

宮東参事：前回、林委員から茨木市の予約棚について御意見をいただきましたので先日、部長と見学に行きましたので御報告いたします。

茨木市の中央図書館はずいぶん規模が大きく、予約棚もあ行が2棚、か行が2棚という形で置かれていました。吹田市と違うところは、予約棚にアンテナが張ってありまして図書館に着いて予約棚番号のリストを打ち出して借りていくという形になっています。あ行の2棚のうちで本が移動してもアンテナが張ってあるので本の所在が分かるようになっています。吹田市の予約棚にはアンテナが張ってございませんので一端置いた場所は変えずに、そのままということになります。茨木市の中央図書館は広いのでアンテナを張ることができましたが分館には予約棚は無いということです。

西尾館長：吹田市の図書館ではカードの下3桁の数字を個人番号として、本を確保した日付の下一桁で番号を振って順に配置していますので、見ていただく棚はいつも一緒ということです。その点は茨木市さんと変わらないということになっています。この表示がわかりにくいという御意見だと思います。

吹田市のもは個人番号はいつも一緒ということで、後に表示されていますが、棚についている番号が個人番号で表示されているためにわかりにくくなっているのが原因かと思われます。これを逆転させることを検討したいと思います。

宮東参事：今現在、日付が前に来ているのに慣れておられるので、御意見をいただくことがあるかも知れませんが、今後来られる新しい方にとってどちらがわかりやすいかということを考えたいと思います。

佐藤委員：市民病院の受付機は3台ありますが、必ず案内の人が立っておられます。

こんなに予約でもめるのであれば人員をつけるのが確かだと思います。

西尾館長：中央図書館に限らず迷っている人がいればカウンターの近くに配置して、すぐに御案内するような対応を全館でお願いしています。

佐藤委員：変えると前はこうやったのにと、かえってもめますので。

林委員：棚の番号がNDCに思えて混乱するのです。

### (2) 退任委員の報告

渡邊委員長：報告事項の2番目の退任委員の報告に移ります。

宮東参事：事務局より、27年度から第7期協議会に公募でご参加いただいていた林委員、佐藤委員の退任と、長らく議長をお勤めいただいております渡邊委員と子どもの本連絡会より御推薦の末岡委員が任期満了につき退任となりますこと

を御報告いたします。

公募のお二人ともまた末岡委員は、会議に際しては率直な御意見をたくさんくださり議論を深めることができたと思っております。渡邊先生につきましては協議会の牽引役となってお力をいただきました。ありがとうございました。

この報告の後、一言ずつ御挨拶いただければと思います。

佐藤委員：(挨拶)

林委員：(挨拶)

末岡委員：(挨拶)

渡邊委員長：(挨拶)

#### 4 その他

(次回日程調整、事務連絡)

これもちまして、本日の協議会を閉会させていただきます。改めてありがとうございました。

---

本要録ならびに配付資料は、吹田市立の各図書館及び情報公開課で閲覧可能です。

要録作成日：平成29年(2017年)12月28日